

困ったことがあったら、
気軽に相談してください♪

生活支援コーディネーター

地域での助け合い活動を支援

生活支援コーディネーターは、誰もが住み慣れた地域で生活していくために、地域の力と困りごとをつなぐ役割をしています。市では、市社会福祉協議会に委託し、平成29年4月から中学校区ごとに3人の生活支援コーディネーターを配置して活動しています。地域の居場所などに出向いて地域の人の意見を聞き取り、それを解決するための方法を地域の皆さんや市内のボランティア団体などと一緒に考えていきます。

たとえば、買い物に行くのが不便という悩みには、地域の人と共に買い物バスの実施を検討し、支援を行いました。また、地域の居場所作りを行っている人とも連携して、活動の充実を図っています。



生活支援コーディネーター
上田唯乃さん(左)、落合昌子さん(中央)、
山田奈津子さん(右)

report

コーディネーターの取り組み

●地域資源のコーディネート ＜買い物バス＞

下平川の奥の谷地区にある協和会館には、毎月1回、ボランティアが運転する「買い物バス」がやってきます。自分だけでは遠くへ買い物に行けない、高齢者の1人暮らし世帯と高齢夫婦世帯の人を対象に、無料で市内のお店に連れて行ってくれる地域活動です。

この日は、菊川駅北側のショッピングモールに向かい、利用者は薬局やホームセンター、スーパーマーケットでたっぷりと買い物を楽しみました。

買い物バスを実施している杉本蓮修さんは、「以前から買い物バスの要望は多くありましたが、人員や車両の確保の点で実現が難しかったです。そんな時、コーディネーターさんとの懇談の場があり、社協さんと和松会さんが協力してくれたおかげで実現できました。皆さんに喜んでもらえてうれしく思います」と話しました。



協和会館館長
杉本蓮修さん

●地域の居場所で情報収集 ＜下本所^よ掘り所＞

下本所掘り所は、横山定雄さんが平成27年の5月から始めた地域サロンです。65歳以上の高齢者を対象に毎月27日に下本所公民館で開催しています。

福祉有償車両の運転手などをやっていた横山さん。東日本大震災のあと、地域の居場所作りの大切さを実感し、自分でサロンを立ちあげました。

利用者に楽しんでもらおうと、市の出前行政講座を活用したり、社会福祉協議会の職員を講師に招いたり、毎月内容を変えています。



－ 利用者の声 －

車が運転できなくても遠くへ連れて行ってもらえるのがうれしい

いろいろなお店に行けるので毎月楽しみにしています



薬の効能などを店員さんに聞きながら買うことができて安心です

1人では運べない重い物を運んでもらえるので、助かっています



この日は、社会福祉協議会の職員が「ながら体操」「脳トレ」「すごろくゲーム」「ビンゴゲーム」を紹介。中でもすごろくゲームは、2チームに分かれてサイコロを振り、マスに書かれているミニゲームをして大盛り上がりでした。

利用者からは、「毎月夫婦で来るのを楽しみにしています」「みんなの顔が見れてお話ができて楽しい」「毎回違うゲームをやって面白い」と好評です。横山さんは、「高齢者の元気づくりが一番です。自分も元気だから、それを分けてあげたいです。自分もおっくうになる時もありますが、楽しみにしている人がいるのにその楽しみを取ったら良くないと思い、続けてきました」と活動への思いを話しました。



下本所掘り所
横山定雄さん